

迷わず陸上部に入った。小学校の頃も、スポーツ少年団に入っていて走りには自信があったからだ。仲の良い友人も入り、今までは違おう、お互いを高め合う仲間であり、良きライバルになっていく気がした。しかし、入部して少し経って、急に思うように走ることができなくなった。大会でも順調に記録を伸ばしていたのに、息が上がりに、足も上がらない。あまりの変り様に、おかしいと思いつい、病院で検査してもらった。「貧血」と診断された。そのときはそこまで悪い数値ではなく、時間が経てば治ると思っていた。一日でも早くもとの走りに戻したかったため、コーチにお願いして練習をみんなと別のメニューにしてもらった。しかし、期待とは裏腹に、時間が経てば経つほど、貧血はどんどん悪化していった。ひどいときには

0歳の赤ちゃんと変わらないほどのヘモグロビンの数値だった。それから状態が良くなっていく様子もなく、練習ができないことへの焦りや人間関係などの不安がどんどん積み重なっていった。「他の人が一生懸命練習しているこの場所に自分がいなくてもいいのだろうか。仲間はずれにされないだろうか。」それでも、不安なことを口にすると、友人がいつも励ましてくれていた。私よりもきつい練習を一生懸命こなしているはずなのに、私を、「大丈夫！」と励ましてくれる友人や先輩、支えてくれていてるコーチや両親に対して、何ともいえない感情で涙がこみ上げてきた。と同時に、「私は恵まれてるんだな。」と実感した。私は、私を支えてくれてる周りの人たちの存在に気づいたのだ。結局、私は中国中学校駅伝のメンバーにはなれなかった。

ンバーにはなれなかった。けれども、メンバーの補助員をさせてもらうことになり、両親やコーチからも、「いい経験になる。」と言われた。そして、先輩や仲間が一生懸命に走っているところをみて、来年こそは自分もあの舞台で走りたいと強く思った。2年生になり、気持ちを切り替えていこうと思つた。病室も勧められた大きなところに通うようになった。すると、今までなかったくらいにヘモグロビンの数値が上がっていった。もう治らないと諦めかけていたため、驚きと喜びで言葉が出なかった。医者にも、「少しずつなら走つていいよ。」と言つていただいた。久しぶりの練習。やはり、体力は落ちていたが、仲間とともに走れて楽しい



という感覚がよみがえってくるのを感じて、とてつもなくうれしかった。私は、今、再スタートをしたと思つている。当然、あの頃の自分がどうしようもないくらい不安を抱えていたことは忘れられないだろう。そして、その逆境を乗り越えたという成功体験も忘れない。けれども、今の自分がこの思いを冷静に振り返ることができるのは、皆さんの人からの、「大丈夫」があったからだ。私には、私に閉わつてくださるすべての人への感謝を忘れず、そして、その期待に応えるために、目標に向かって突き進んでいきたい。

伝統を受け継いで
坂中学校3年
渡瀬 羽南

だった。家に帰り、そのことを母に伝えると、「子どもの頃、巫女をやっていたけど、人数の関係でできなかつた。」ということ話をしてくれられた。「巫女になってくれてうれしいわ！」そう言われ、私は母の分まで頑張ろうという気持ちになった。間もなく、集会所での練習が始まった。毎日、夜7時から8時30分まで笛や鈴の音が集会所から鳴り響く。青年団や地域の人たちに支えられながら、日々、練習に励んだ。本番まで残り僅かになったある日、ひとりのおじいさんがこう言った。「わしらが子どもの頃からある祭りじゃけえ、一生懸命せんとのお。」「今年はあるたらが主役で小屋浦を盛り上げんさいよ！」その言葉を聞いて、「私

たちが小屋浦に笑顔をお届けなければ。」と、強い使命感を持つようになった。そして、当日。私は母やおじいさんの言葉を胸に神社の参殿に入った。練習中、何度も挫けそうになった。面倒くさいと思う時もあった。けれど、今日、成功させて小屋浦の伝統を守り続けるとともに、今まで伝統を受け継いできた中のひとりでして役目を果たしたいという気持ちで頑張つてきた。巫女舞いを舞っている最中、参拝にいられている人たちが、みんな、私たちのことを見ておられた。私は、今できることを精一杯やろうという気持ちで、今までの練習の成果を存分に発揮することができた。舞い終わつた途端、見ておられた人たちから盛大な拍手をいただいた。その時、私は涙が出そうだったが、

ぐつとこらえ、「このひと時のために私は練習を重ねてきたんだ。」と心から実感した。母のもとへ駆け寄ると、周りで涙ぐんでいる人から、「きれいだったよ。」「本当に良かった。」そう言ってくださる人がたくさんいた。活気ある小屋浦に一歩前進した瞬間に立ち会うことができた。例年通りの秋祭りではなかったけれど、人々の思いが、小屋浦を災害前の光景に戻してくれることを実感した。そして、一生懸命取り組み、自分の思いが伝わるんだという感動を得た。この出来事があったから、私は大好きな小屋浦の伝統をしっかりと守り、後世に伝えていきたいと強く思うようになった。それからは、毎年、祭りや地域活動に積極的に参加するようにしている。



令和5年小屋浦秋祭り

民生委員・児童委員変更

民生委員・児童委員として地域の方の相談・支援をしていただきました方1名が退任され、令和5年12月1日から新しい民生委員・児童委員が次のとおり決まりました。(敬称略)また、それに伴い、担当地区が一部変更となります。

担当地区	(前任者)	(後任者)
植田一丁目～二丁目・植田四丁目2番・5～20番	花房 勲	近藤 京子
植田三丁目・植田四丁目1番・3～4番	近藤 京子	木村 麗子 (新任)